

令和7年度
(2025年度)

事業計画書



学校法人巨樹の会

目 次

1. 学校法人の概要	1 ～ 2
2. 事業計画	3
3. 運営方針	4
4. 教育計画	5 ～ 6
5. 設置する学校・学科等	7
6. 各校の事業計画	8
令和健康科学大学	9
小倉リハビリテーション学院	10
下関看護リハビリテーション学校	11
八千代リハビリテーション学院	12
福岡水巻看護専門学校	13
武雄看護リハビリテーション学校	14

1. 学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、姉妹校専修学校5校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛・自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池眞澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛・自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校5校の卒業生は約17,700人(令和6年3月閉校:福岡看護専門学校・福岡和白リハビリテーション学院 卒業生含む)を超え、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科
令和 6年 3月	福岡看護専門学校 閉校 福岡和白リハビリテーション学院 閉校
令和 6年12月	みずまき助産院ひだまりの家を閉院
令和 7年 4月	福岡水巻看護助産学校 名称変更:福岡水巻看護専門学校へ 令和健康科学大学大学院 開設

2. 事業計画

—— 学校法人巨樹の会 2025年度事業計画 ——

第1期 中期計画 2022年度～2027年度(6年間)

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 教育 | 大学及び専門学校が目指す、養成する人材像に向けた質の高い教育活動の実現。 |
| 2. 研究 | 臨床実践に寄与できる研究を推進する。 |
| 3. 地域連携・社会貢献 | 地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う。 |
| 4. 組織運営 | 理事長を中心とした健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化 |
| 5. 施設設備 | 質の高い教育を目指すための計画的な施設設備の拡充及び整備 |
| 6. 財務基盤 | 学生の確保、適正化を目指した経費の効率化 |

2025年度(令和7年度) 学校法人巨樹の会 基本方針

<2025年度事業計画の概要>

法人設立から33年目を迎えた2022年4月に令和健康科学大学を開学し、2025年4月には新たに大学院を設置し、更に教育研究活動の充実を図っていきます。

現在、1校の大学と5校の専門学校を運営する学校法人として、建学の精神にある人間性豊かで、社会に貢献できる実践力を身につけた医療の専門職業教育を目指し、グループ病院の協力のもと、7年間一貫教育を掲げ質の高い人材を社会に送り出せるよう、健全かつ適正な経営を行うためのガバナンス体制の強化を行い、学校法人を取り巻く様々な課題を見据え、地域で選ばれる学校づくりに取り組みながら、着実に事業を推進してまいります。

I. 新規事業

1. 私立学校版ガバナンスコードの策定
2. 地域で信頼され選ばれる魅力的な学校づくりの取り組み

II. 継続事業

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
2. 事務執行の業務効率化を高めるべく、DX化の促進
3. 退学者抑制の取り組み(進級率・卒業率90%以上の実現)
4. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
5. 定員充足率向上への取り組み
6. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
7. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1) メンタルヘルスケア体制の充実と健康管理を推進
 - 2) ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
 - 3) 年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施

3. 運営方針

—— 令和7年度 学校法人巨樹の会 運営方針 ——

1. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う。

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - (1) 実践能力の強化に向けた教育体制作り
 - (2) 一人ひとりを大切にした教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力、事務の実務能力を育成する。

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
- 3) 大学におけるFD・SDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

3. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

- 1) 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
- 2) 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

4. 大学及び専門学校の将来構想に向けて、法人としての方針を出す。

- 1) 専門学校、大学の入試状況の変化を捉えて、10年後の方針を検討していく。

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力を有し、全ての人の健康のために地域社会に貢献できる看護師、理学療法士、作業療法士を育成する教育を実践する。

- 1)「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」など社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、アクティブラーニング等、学生の能動的な活動を取り入れた授業を実践する。
- 2)専門教育においては、医療における実践力を身につけるために臨床のリアリティのある事例を活用し、専門的な知識と技術、態度を統合して学べるようなシミュレーション教育を行う。
- 3)学生の内発的動機付けを高める教育の実践のために、学習した内容のフィードバック、知識の整理・構造化を促すような授業デザインを工夫する。
- 4)ICT教育ができる環境を改善しながら、教育効果を高める教育方法を実践する。
- 5)学校評価を通して、カリキュラムの評価・改善を図る。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。

- 1)学生の主体性を尊重した教育的支援を行う。
- 2)学生の多様性に配慮した一人ひとりを大切に教育支援を行い、学校医、学校カウンセラーと連携して、学業継続を支援する。
- 3)入学時から一人ひとりにあったキャリアデザイン形成を支援し、就職率を高める。
- 4)実践力を身につけることのできる卒後教育が充実した病院への就職支援を積極的に行う。
専門学校;6年間一貫教育(基礎教育3年＋卒後3年間の臨床教育)
大 学;7年間一貫教育(基礎教育4年＋卒後3年間の臨床教育)

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。

- 1)昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
- 2)各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。

- 1)広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2)各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看護学科:指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問数の拡大、複数回の訪問

PT・OT:奨学金制度の充実、進路指導教員へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実践

V. 管理体制の強化

1. 経営意識を落ち円滑な学校運営を行う。

- 1) 学校評価を基にPDCAサイクルにフィードバックし改善を行う。
- 2) 危機管理の意識をもち、適切な判断・対応を行う。
- 3) 教職員の適正人数の配置を行う。
- 4) 各部門相互の協力・連携による組織力の向上を図る。
- 5) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに情報セキュリティ対策を強化する。

2. 教職員の目標管理を活用し、必要な能力の向上に努める。

- 1) 人材育成の視点をもった目標管理を行うことで、教職員自身の役割を明確にし、主体的な判断や行動ができるようにする。
- 2) 教職員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - (1) 専門学校においては、教員としての学生対応や各専門領域での専門性を向上させるための関連学校の研修(中央研修)を計画し参加を促す。
 - (2) 大学においては、教職員の能力開発を目的としたSD/FDを推進していく。

5. 設置する学校・学科等

大学

令和7年4月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	大学院 ※令和7年度開設	健康科学研究科	2年	12名	24名
		看護学部	看護学科	4年	80名	320名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	320名
			作業療法学科	4年	60名	240名

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科 ※令和7年度以降学生募集中止	夜間コース	4年	—	120名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科 ※令和7年度以降 入学定員80名を40名に変更	昼間コース	3年	40名	200名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	120名	360名
		理学療法学科 ※令和7年度以降学生募集中止	夜間コース	4年	—	120名
		作業療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
福岡水巻看護専門学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

6. 各校の事業計画書

学校法人巨樹の会では、2022年度を初年度とする2027年までの6年間を第1期として「教育」「研究」「地域連携・社会貢献」「組織運営」「施設設備」「財務基盤」の6つの項目について、中期計画を立案している。法人としての方針及び推進事業を設定し、建学の精神及び教育理念に基づき、各学校の単年度の事業計画と連動させることにより、確実に計画を推進していく。

- ・ 令和健康科学大学
- ・ 小倉リハビリテーション学院
- ・ 下関看護リハビリテーション学校
- ・ 八千代リハビリテーション学院
- ・ 福岡水巻看護専門学校
- ・ 武雄看護リハビリテーション学校



事業計画(令和7年度)

— 日本の医療を変える大学を創る —

1. 教育

(教育)

学部においては、設置計画を踏まえ、本学の特色を踏まえた実践的なカリキュラムを実施し、ICT教育を含めた教育内容、方法の充実を図る。また、教育成果の指標である国家試験合格に向けた指導を行う。加えて、本学の目的に照らして、基礎分野を含む各学科のカリキュラムの見直しを進める。

大学院においては、設置計画を踏まえ、教育研究の充実を図る。

(学生支援)

学部においては、学生の正課外活動支援、経済支援を行うとともに、キャリア支援のさらなる充実を図る。特に、就職及び国家試験合格に向けた支援に取り組む。また、保護者との連携による学生支援を行う。

大学院においては、学生の状況に応じた学生支援を推進する。

2. 研究

教員個々が自らの研究基盤に基づき、科学研究費補助金を含めた外部資金の獲得を目指すよう、支援を行う。

また、カマチグループとの連携をより深めることで実践的研究を推進する。

3. 地域連携・社会貢献

国内外の大学等や地域との連携、交流をさらに進める。また、他大学、他機関との共同研究等の連携を進める。

4. 組織運営

学長のリーダーシップのもと、教授会、各種委員会等において、大学を取り巻く諸課題の解決に取り組むとともに、適切な情報公開を進める。また、内部質保証の活動を具体的に進める。

5. 施設整備

大学の施設設備の点検を常に行い、適切な教育研究環境を維持する。また、学生への情報セキュリティの徹底を行い、学内施設のICT教育の環境整備のより充実化を図る。

6. 財務基盤

学生確保のため、学生募集に関する広報を実施するとともに、経費の効率的な利用及び適正な管理に努める。



信頼と期待で選ばれる学校創り

1. 社会貢献できる人材の育成

- 1) 医療人としての倫理観・コミュニケーション能力・問題解決能力を育成し、地域社会に貢献できる人材を育成する。(社会人基礎力とリーダーシップの育成)
- 2) 生活習慣を整えメリハリのある学校生活の構築(時間厳守、報連相・挨拶の徹底)
- 3) ボランティア活動を通じた情意教育
- 4) 学科教員やカウンセラーとの情報共有による退学者防止

2. 選ばれる人材となるための就職支援体制の強化

- 1) 担任の個別面談を実施し早期の進路希望決定を支援しミスマッチを防止する
- 2) 就職セミナーや就職説明会の早期開催
- 3) 教員の就職支援力(履歴書作成、面接対策)向上
- 4) 卒業生の就職先訪問による現場ニーズの聴取

3. 高い国家試験合格率

- 1) 1年次からのグループワーク導入による学習方法の確立
- 2) ICTを活用した学習習慣の定着
- 3) 教員の高い分析力と効果的な学習計画
- 4) 進級率100%を目指し、学生の実況に合わせた臨機応変な個別支援

4. 教員力の強化

- 1) 学生の能力を生かし自主性とリーダーシップを育む活気あるクラス作り
- 2) キャリアモデルである教員の意識向上とふさわしい言動
- 3) 高い学習指導力(わかりやすく魅力的な授業展開)を目指した授業評価の実施
- 4) 専門性や指導力向上目的とした研修へ参加することで自己研鑽に努める

5. 教育環境の整備

- 1) 老朽化に伴う施設や教材の整備(外壁補修など)
- 2) 臨床実習施設との連携強化(3クール制に伴う期間延長)
- 3) 様々な領域に対応できる新規実習施設の確保
- 4) 学生寮の確保と継続的管理

6. 安定した財務基盤の維持

- 1) 募集活動の工夫による定員の充足
SNSの活用や高校訪問、ガイダンス参加による情報提供
- 2) 教材や備品の適切な使用と補充
- 3) 職員による節約意識の向上(優先順位を考えた経費使用)
- 4) 省エネ対策を推進し、光熱費削減に努める

7. 学校運営システムの再整備

- 1) 職員の報告・連絡・相談の徹底
- 2) 各自の職務を意識し責任ある行動を心掛ける
- 3) 業務分担を明文化し職員同士のサポート体制を強化する

8. 地域に求められる開かれた学校創り

- 1) 職業実践専門課程や職業訓練施設としての実績を維持していく
- 2) SNSを活用した学校情報の発信と保護者連携
学校の魅力が伝わり本校でよかったと思われる情報を発信をしていく
- 3) 部活動支援による高専連携
職種理解も含めた広報活動
- 4) 地域ボランティアへの積極的な参加
地域住民向けの健康講座を開催し地域貢献を行う

信頼され、選ばれる学校
学生の学力強化とICT教育、多職種連携教育(IPE)の強化
～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

- 1) 両学科協力によるIPEの充実
- 2) シミュレーション教育の充実
- 3) 考える学習の強化

2. 学生満足度向上に向けた取り組み

- 1) 教員の教育力向上
- 2) 教育教材の充実
- 3) 学校および学生寮の施設・設備の改善

3. 研究

- 1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進

4. ICT環境の運用

- 1) ICT環境の効率的な活用

5. 退学者抑制の取組み(進級率・卒業率90%以上の実現)

- 1) 学生情報の共有と早期対応
- 2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携
- 3) 学習支援強化
- 4) 保護者との連携

6. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み

- 1) 学年に応じた学習指導
- 2) 能動的学習の強化

7. 定員充足の取組み

- 1) インターネット、SNS等による情報発信の強化
- 2) 高校訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加
- 3) 地域連携の強化(部活支援活動、キャリア教育への協力)

8. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

- 1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰
- 2) 関係団体との連携による地域貢献の推進

9. 業務効率化の促進

- 1) 業務効率向上に向けた職員の意識改善
- 2) 業務の見直しと適切な業務分担
- 3) 効率化に伴う設備の充実

～未来を支える人材の育成、魅力的で選ばれる専門学校を目指す～

1. 実践的な教育

- ・ 少人数制での学習サポートや指導体制の充実
- ・ グループ病院との連携で臨床実習における実践力を養う
- ・ ICT教育の推進
- ・ 教員の教育力を高める為の研修の充実や自己研鑽の推奨

2. 教育環境の整備

- ・ クラス担任制を活かした相談体制の充実と学生相談室との連携
- ・ 初年次教育等の修学支援力を高め退学者の抑制につなげる
- ・ 緊急時などいつでも速やかに遠隔授業を実施できる態勢継続
- ・ 教育機材の充実
- ・ 学生寮備品の入替え

3. 学外での学習機会の確保、整備

- ・ 学外学習やボランティア活動の継続実施で地域活性化への協力
- ・ 学生増員に対応できる臨床実習施設登録拡充の継続
- ・ カンボジア研修旅行の継続実施

4. 定員充足への効果的な広報活動

- ・ 高校ガイダンスへの積極的な参加継続
- ・ 通信制、定時制などに広げた高等学校との更なる連携
- ・ リスティング、リターゲティング、YouTube広告などのWEB広告の効率的な配信
- ・ 市役所サイネージや駅看板での広告継続での認知度アップ
- ・ 学院祭開催による近隣地域住民への更なる認知度アップと地域活性化への協
- ・ SNSを有効活用した学生目線での情報発信

5. 経費削減での効率的運営

- ・ 授業資料や会議資料などペーパーレス化の推進
- ・ 郵送物はメール配信に可能な限り切替



学校法人巨樹の会

福岡水巻看護専門学校

地域に貢献できる人材育成 ～選ばれる学校づくり～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

- 1) 看護教員の教育実践力の向上
- 2) 看護実践能力が身につく授業の工夫

2. 学生満足度向上に向けた取り組み

- 1) 学習環境の整備
- 2) 教育教材の充実
- 3) 学生との援助的関係の確立

3. ICT環境の運用

- 1) 共同学習としてのICT教育の推進
- 2) ICT教育力の向上

4. 進級率・卒業率向上への取り組み

- 1) 学生の意見や考え方の違いを理解・尊重し、個々に応じた支援の実施
- 2) 保護者との連携
- 3) 学生の状況に応じたカウンセリングの効果的な活用

5. 国家試験合格率100%に向けた取り組み

- 1) 1年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築
- 2) 修学指導への取り組みの強化

6. 定員充足への取り組み

- 1) 教職員が一丸となって学生確保に取り組む
 - (1) 情報収集力・発信力の強化
 - (2) 入学生のニーズに応じた学校説明会の実施
 - (3) 高校訪問をし、学生の状況提供を行い連携を図る。

7. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

- 1) 地域清掃の継続
- 2) 地域の小・中学校の授業やイベントへの協力
- 3) 地域のボランティア活動への参加

8. 就職支援・キャリア支援

- 1) 就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り



パーフェクトを目指して、開かれた信頼される学校創りに邁進する
～学生を主体とした活力と活気ある学校に～

I.重点施策事業

1)医療人としての人間性・人間力の育成

- ①基本的な生活習慣と学習習慣の確立をさせ、自主的な学習活動の在り方の推進
- ②学生一人ひとりを大切にして、教育活動の展開(自主性・コミュニケーション能力の育成)
- ③社会地域活動への積極的な参加と学科・学年間連携によるアイデンティティーの醸成

2)進路保障100%達成

- ①履歴書添削と小論文指導・面接指導に携わる教員の力量を高める。
- ②関連病院への早期就職に向けての連携強化、病院見学・就職説明会の実施

3)国家試験全員合格

- ①1年次より学習指導体制の構築と3年間のスパンでの国家試験対策の取り組み
- ②学生の能力に応じた早期からの個別指導対応とグループ学習の実施
- ③学科の問題作成や学生指導の在り方の共有と、研修会実施での指導力向上

4)退学・休学者をなくす

- ①定着率100%達成のために、担任・副担任の連携と個別面接・カウンセリングの実施等の早期対応
- ②ホームページやメール機能を活用した、保護者への学校活動状況の配信と連絡体制の連携強化

5)高校との信頼構築で定数確保(少子化対策)に向けての施策

- ①学校単独のガイダンスの開催と高校部活動への援助と支援や在校生からの近況報告を実施
- ②高専連携・地域密着型の広報活動の推進と早期の取り組み
- ③ホームページブログやSNSを活用した学校情報の迅速な配信と学生状況の連絡
- ④受験業者とマスメディアを適切に利用した高校と受験生への情報提供

6)教職員の資質向上

- ①学校長が示した教育方針の達成のために、教職員は共通理解を図り、全力で取り組む
- ②教育力向上のための各種研修会、講習会の実施と受講への積極的取組みと実践
- ③専任教員の強みを生かした、魅力的な講義実施と教育システムなどの教員間評価の活用
- ④専任教員として国家試験対策と就職支援指導力のレベルアップ
- ⑤専門分野の幅広い授業が行えるように、担当外の専門教科指導力アップの自己研鑽に励む

7)魅力ある指導実践(ICT活用等)

- ①ICT環境のより効果的な活用(電子書籍やアプリ教材の導入)オンライン授業の実施
- ②図書室の書籍購入と演習の充実を図るための必要で最新の教材購入
- ③学校の特徴を生かした看護学科と理学療法学科の職種間連携の推進

8)地域、行政と連携したボランティア活動

- ①特別支援学校・地域病院スポーツ大会、老人クラブ・地域イベントとの連携を図る
- ②市町村の行事や社協との連携自然災害によるボランティア活動の実践

9)教育費等の削減と業務の効率化

- ①教育機材や補助教材の適切な購入と使用
- ②消耗品や光熱水費(適切な温度設定)の節約への取組み(ペーパーレスの推進)
- ③県の補助事業を活用した学校予算の効果的な使途での教育力向上

10)学校環境整備

- ①学生寮(男子・女子)の必要に応じた部屋数の確保と駐車場の整備
- ②職員・学生の危機管理体制と連絡体制の周知徹底と訓練
- ③安全管理のために施設・設備の老朽化、地盤沈下のための改善

11)開校15周年に向けての準備作業(整備)

- ①開校からこれまでの成果の書類整理と毎年の更新(保管作業)